

昭和 13 年の第 3 機関銃中隊 (2)

～部隊陣中日誌から



期間：2021年1月30日～5月27日

解説

前回の展示では、昭和13年3月における歩兵第38連隊第3大隊第3機関銃中隊の行動を見てきました。この時期、歩兵第38連隊の任務は、傘下の部隊を大隊や中隊といった数百人単位の部隊で占領地に散在させ、周辺の治安維持や「討伐」にあたることでした。当館には、その後の4・8月までの間の機関銃中隊の陣中日誌はありません。この間、歩兵第38連隊は集結して南方に移動（『奈良聯隊写真帖』1980）し、以後は上位の師団や軍、方面軍といった単位で行われる大規模な作戦の一翼を担うようになります。

『支那事変陸軍作戦2』（戦史叢書）によって、この間の情勢を見てみましょう。もともと、昭和12年(1937)7月の開戦後、半年で国民政府の首都南京を陥落させた段階で、東京で戦争指導に当たっていた大本営（参謀本部）は、ソ連に対しても警戒する必要があります、とそれまでの占領地確保を主眼とする戦線不拡大方針を取りました。3月の連隊や機関銃中隊の行動もこうした方針に沿ったものに他なりませんでしたが、現地の軍司令部は活発な動きを見せる当面の敵に打撃を与える必要性を主張します。結局、現地が中央を説き伏せる形で、北支那方面軍・中支那方面軍によって行われたのが、昭和13年4・7月の徐州作戦、6・11月の武漢（漢口）作戦です。この両作戦は、海岸部から内陸部へと、黄河・揚子江間の要衝である各都市を攻略していこうというものでした。

再び歩兵38連隊第3大隊第3機関銃中隊の日誌が見えるようになる昭和13年9月には、既に武漢作戦は開始されており、部隊によっては、激しい戦闘も行われていました。しかし、中隊の日誌は、淡々と西に向かって行軍する日々から始まっています。中隊の所属する第16師団や第13師団等に与えられた任務は、揚子江沿いに武漢を目指す諸師団と平行して北方を西進し、中国国民党系の守備部隊が立てこもっていた山岳地帯を、東北から攻略することでした。

幸い、9月13日からは、やはり中隊の所属する歩兵38連隊の「戦闘詳報」が防衛省防衛研究所に残されており（簿冊『歩兵第38連隊 鄧家集附近戦闘詳報 昭和13年9月13日～昭和14年3月5日』）、これはアジア歴史資料センターのウェブサイトから全文が閲覧可能となっています（同センターref:C11111201700）。戦闘詳報は、公的な陣中日誌と同様の位置づけを与えられていた公文書で、本簿冊の前半の第1号～第6号（ref:C11111201900～2500）が機関銃中隊の陣中日誌の残っている時期と重なっています。連隊の戦闘詳報は、傘下部隊の陣中日誌や戦闘詳報といった報告類を取りまとめる形で、統一した書式でまとめられたものです。すなわち作戦単位に1.戦闘前における彼我状態の概要、2.戦闘に影響を及ぼしたる気象、3.地形及び住民の状態、4.彼我の兵力及び交戦せし敵の団体号、5.各時期における戦闘経過の概要、

6.戦闘後における彼我体制の概要、7.齟齬過失その他将来参考となるべき事項の7項目に総括するものでした。また、付属資料には、中隊の陣中日誌に見える付図などと共通する印刷物も見えています。中隊の陣中日誌と連隊の戦闘詳報両者を合わせてみることで、複眼的に事態を追っていくことが可能になります。

連隊戦闘詳報は、9月13日に至る「1.戦闘前における彼我状態の概要」として次のように伝えていきます。「九月初旬数梯団トナリ廬州〔現安徽省合肥〕ヲ出発、固始ニ向ヘル師団ハ、葉家集西側高地ヲ占領セル敵ヲ数日来、力攻中ナリシ第十三D〔師団〕ノ戦闘ニ協カスヘク、急遽葉家集ニ集結ヲ命セラレ」
「九月十日二一.〇〇同地ニ到着」して前進の準備を整えます。しかし、第13師団の正面の敵は12日から後退を始めたため、日本軍側は、急遽追撃する部隊や退路遮断に向かう部隊に再編して前進を急ぎます。「連隊ハ師団本隊トナリ第三大隊ハD前衛トナリ十二日〇二.〇〇葉家集北側橋梁ヲ出発」（ref:C11111201900の2コマ）。機関銃中隊の陣中日誌の12日の項目にも、これに対応する記載が見えます。

こうした情勢のまま、機関銃中隊を含む大隊は、この段階では師団の前衛として後退する敵を追い、交戦を重ねつつ前進を続けます。その過程で行われたのが資料にいう「鄧家集付近の戦闘」です。戦闘に入った13日の中隊の日誌には、「狙撃ハ今迄ノ敵ニ比シ下手ナリ」といった強がりともとれる表現がありますが、15日の攻撃では中隊から十名近くの戦傷者を出すに至ります。結果としては、大隊総がかりの攻撃によって午後には、敵が抛る高地の奪取に成功しますが、なおも戦傷者が続出しました。

さらに、24日からは、中隊は「鉢巻山」等の沙窩北方高地の攻撃に入ります。前述した連隊の戦闘詳報に採録されている「沙窩方面北方地区戦闘詳報」（ref:C11111202100）を見ると、当初歩兵第33連隊を主とする師団の先遣隊が一気にこの陣地を抜こうとしたところ、力攻数日なおも突破できぬという頑強な抵抗にあい、急遽歩兵38連隊第3大隊と砲兵を基幹とする部隊、すなわち日誌の機関銃中隊をはじめとする部隊が増援に投入されたという事情があったとしています。

25日には中隊から戦死4、戦傷5といった被害が出ています。27日には、歩兵第38連隊の本体も追いついてここでの戦闘に加わりますが、この日には中隊から戦死1、戦傷20という大きな損害を出し、中隊指揮班から各小隊への補充が必要になった程でした。ただ、日誌を見ると、激しい戦闘が毎日続いたわけではなく、命令による陣地の転換を繰り返しつつ、小康状態の日と、25日や27日のような戦死傷者が多く記され多くの損害を出した日がくっきりと分かれています。この地区での戦闘は10月半ばまで続くのですが、以降の日誌については日を改めて紹介したいと思います。

凡 例

- ・日誌部分は全文を、命令写は主要なもののみを選択して、斜字で示したが、採録しなかった命令も【】内に命令番号のみは記した
- ・基本的に新字に改め、最小限の句読点を補った
- ・表紙と同様、日誌の日付の後には、中隊長の確認を示す「福山」の印があるが省略した

(表紙)

「自昭和十三年九月一日
至昭和十三年九月三十日
秘 第拾三号 《印福山》

陣中日誌

第三機関銃中隊

」

九月一日 晴 於二十廟

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【甲六ノ 26 号】
- 一、七時路口集出發 昨日ニ比シ風少ク蒸シ暑シ 十一時ヨリ昼食大休止、十四時三十分出發 十七時二十廟ニ到着、村落露營ヲナス
- 一、本日前田義一発熱甚タシクシテ午後車両ニ収容ス
- 一、本日ノ勤務員 中隊巡察将校 大西准尉
日直下士官 平 伍長
- 一、本日ノ現在員 中隊長以下 一四六名
馬 二五頭

九月二日 曇 於盧州

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 27 号】
- 一、二時三十分夕立アリ
- 一、七時二十分出發、風寒クシテ行軍日和ナリ 十一時盧州宿舎着、直ニ宿舎ノ設備ヲ行フ
- 一、糧秣受領 午後被服受領
- 一、久シ振りニ宿舎ニ入ル
- 一、片岡恒夫、植田定雄急性腸炎ニテ入院
- 一、山中一夫連隊本部ヨリ復歸ス
- 一、本日ノ日直下士官 森田伍長

一、本日ノ現在員 中隊長以下一四五名

III 作命六ノ 27 号 九月二日十七時四十分 於二十廟 第三大隊命令

- 一、大隊ハ明九月二日七時〇分現在地出發第二梯団ノ進路ヲ盧州ニ向ヒ前進セントス
- 二、第二中隊ノ一ケ小隊ハ先兵トナリ七時〇分以後連隊本部ノ前方二〇〇米ヲ前進スヘシ
- 三、盧州設営ノタメ各隊ハ六時〇分迄ニ第三機関十中隊ニ設営者ヲ差出シ連隊乙副官ノ指示ヲ受ケシムヘシ
- 四、爾後ノ諸隊ハ七時〇分迄ニ第三機関銃ノ位置ニ集合シ左ノ行軍序列ニ依リ前進スヘシ
▶ 10(-1/3) 11(-1/3) 12 9 MG B i A
小行李
- 五、大行李ハ連隊大行李ノ後方ヲ前進スヘシ
- 六、余ハ七時〇分以後大隊ノ先頭ニ在リテ前進ス
大隊長 兒玉少佐

大隊長注意

本夜宿營地ハ盧州ニ近ク土民概シテ安住セルカ如キモ猶油断セサルコト、亦諸器具物品ヲ使用スルハ勿論差支ヘナキモ持去ラサル如ク注意スヘシ

九月三日 曇後雨 於盧州

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 日命第 32 号、III 作命六ノ 28 号】
- 一、八時三十分ヨリ病馬診断及装蹄実施
- 一、蹄鉄工兵山口弘以下四名装蹄場へ差出ス
- 一、九時三十分小隊長連隊長ノ訓示アルニ付連隊本部へ
- 一、午後入浴ヲ設置シ久シ振りニ全員入浴ス
- 一、太田少尉 任陸軍歩兵中尉 (九月一日付)
- 一、東田康雄甲種幹部候補生ニ採用サル
- 一、本日ノ日直下士官 松本伍長
- 一、本日ノ現在員 前日ニ同ジ

九月四日 晴 於盧州

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 29 号】

- 一、返納被服等ノ準備及被服修理
- 一、病馬診断及馬三頭装蹄実施
- 一、奥田辰蔵入院中ノ所隊員帰隊ス
- 一、山本吉雄急性腸炎ニテ入院
- 一、本日ノ日直下士官 上田伍長
- 一、本日ノ現在員 中隊長以下一四五名

九月五日 晴 於盧州

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ
【III 作命六ノ 30 号、中隊命令】
- 一、被服受領、糧秣受領
- 一、野口嘉信コレラ疑似症ニテ入院
- 一、本日ノ勤務員 日直下士官 辰巳伍長
- 一、本日ノ現在員 中隊長以下一四四名
馬二五頭

九月六日 晴 於盧州

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ
- 一、八時三十分整列中村軍曹以下八名設営ノ為先発ス
- 一、爾余ハ出發準備
- 一、孫入良春急性腸炎ニテ入院
- 一、東田康雄豊橋陸軍教導学校ニ入校ノ為出田兵站部
へ
- 一、本日ノ現在員中隊長以下一四二名

九月七日 晴 於王捌崗

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 31-33 号】
- 一、九月六日十八時二十分整列、十九時西門外大隊集
合場ニ集合、二十時盧州出發
- 一、月明ナレト風ナシ、二十四時ヨリ大休止一時間、
九月七日三時三十分王捌崗着、七時ヨリ朝食、爾
後一般ニ休養ス
- 一、吉田義雄、徳永長三急性気管支炎ニテ入院
- 一、十九時五十分出發ノ為整列
- 一、本日ノ日直下士官 井筒軍曹
- 一、本日ノ現在員 中隊長以下 一四〇名
馬二五頭

九月八日 曇後小雨 於毀堡子

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 35 号】
- 一、九月七日二十時王捌崗出發
- 一、九月八日四時毀堡子着、村落野営ヲナス
- 一、西本政一急性盲腸炎ニテ入院
- 一、本十九時三十分出發ノ為整列
- 一、本日ノ現在員中隊長以下一三九名

九月九日 雨 於胡小店

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 36,37 号】
- 一、九月八日二十時毀堡胡出發
- 一、平伍長急性盲腸炎ニテ入院
- 一、雨中行軍ニテ九月九日一時三十分胡小店着
- 一、太田中尉大隊巡察将校ニ服務
- 一、二十時出發ノ処、直チニ出發命令ヲ受ケテ十八時
胡小店ヲ出發ス
- 一、本日ノ現在員中隊長以下一三八名

九月十日 晴 於吳大港子

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 38,39 号】
- 一、九月九日十八時胡小店ヲ出發、図上ト現地トハ意
外ニ差アリ六安ヲ經テ九月十日二時吳大港子ニ到着
付近ニテ村落露営ヲナス
- 一、九時ヨリ糧秣受領、十時ヨリ被服不足受領
- 一、本日ノ日直下士官 西沼伍長
- 一、本日ノ現在員 前日ニ同シ

III 作命六ノ 39 号 九月十日十五時三十分 於吳大港子

第三大隊命令

- 一、第十三師団ハ葉家西側地区ヲ攻撃中ナリ軍ハ此ノ
敵ニ対シ捕捉撃滅ヲ企図ス
- 二、師団ハ葉家集ニ急迫ヲ命セラル、行軍計画別紙ノ
如シ
- 三、大隊ハ葉家集ニ急迫スル目的ヲ以テ本十日二十時
第三梯団ノ先頭ニ在リテ其進路戸店子ニ向ヒ前進セ
ントス
- 四、第九中隊ハ尖兵中隊トナリ二十時〇分迄ニ大行李
露営地西方五〇〇米地点ヲ先頭トスル如ク集合シ本

隊ノ前方二〇〇米ヲ戸店子ニ向ヒ前進スヘシ
五、第十中隊ハ輜重隊援護ノタメ二十時迄ニ輜重隊本部ニ到リ第九中隊ハ其任務ヲ交代シ輜重兵連隊長ノ区所ヲ受クヘシ、爾後輜重兵第十六連隊ノ直轄トス
六、爾余ノ諸隊ハ本隊トス、二十時迄ニ尖兵中隊ノ後尾ヲ戦闘トスル如ク左記行軍序列ヲ以テ途上縦隊ニ集合スヘシ

左記

▶ 11 12 MG BiA 小行李
七、大行李ハ依然輜重隊ノ前方ヲ前進スヘシ
八、余ハ二十時以後本隊ノ先頭ニ在リテ前進ス
大隊長 兒玉少佐

九月十一日 晴 於固店子

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 40,41 号】
一、九月十日二十時吳大港子出發、十六夜ノ月明ニ鞭声肅々行軍進捗ス、風寒クシテ休憩時ニハ寒イ位ナリ、十一月五時四十五分大固店着二時間ノ大休止シテ朝食ヲ準備ス
一、八時同地出發ボツボツ山道ニ入り十一時三十分固店子着、村落露營ヲナス
一、全員志氣増々旺盛ナリ
一、本日ノ現在員前日ニ同シ

九月十二日 晴 於式廟集

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【要旨命令、III 作命六ノ 42 号】
一、六時固店子出發、塵芥多キ山ノ車道ヲウネウネト通過、十一時三十分葉家集着、昼食ノ後糧秣受領ス
一、大隊ハ第三梯団ヲ解カレ連隊ニ復帰シ別紙命令ニ基キ直チニ敵ヲ急迫スルコトニナリシ団ノ前衛トシテ十四時葉家集出發尖兵第十二中隊ニ第一小隊ヲ配属ス、水清キ史河ノ流レニ支那ニモ清流ノアルコトヲ知ル風少クシテ砂塵多シ、昨日ニ続ク本日ノ強行軍ナレド全員志氣旺盛ナリ
黄昏過キシ二十時式廟集大休止
一、本日ノ現在員 中隊長以下 一一四名
配属 二四名

要旨命令 九月十二日十一時五十五分 於葉家集東端

- 一、葉家集西方八百米高地及富金山ノ敵陣地ハ昨夜及今朝第十三師団之ヲ占領シ進撃ニウツリツ、アリ、歩三十旅団長ハ葉家集付近ノ部隊ヲ指揮シ途中猶抵抗ヲ続ケツ、アル敵ヲ擊彈シ武廟集方向ニ敵ヲ追撃ス、連隊主力ハ現在孫家溝(葉家集北方)ニ在リ葉家集ヲ經テ追撃セントシツ、アリ
二、大隊ハ第二梯団長ノ指揮ヲ脱シ現在地ニ於テ連隊長ノ指揮ヲ待チツ、アリ
三、各隊ハ十一時三十分以後出發シ得ル如ク準備シアルヘシ
四、余ハ葉家集東端ニ在リ

大隊長 兒玉少佐

III 作命六ノ 42 号 九月十二日十三時四十分 於葉家集東端

第三大隊命令

- 一、第十三師団当面ノ敵ハ退却ヲ開始セルモノ、如シ、第十三師団ノ重点ヲ左ノ方ニ維持シ西灣ニ於テ敵ノ捕捉ヲ企図ス、師団ハ当面ノ敵ヲ擊彈シ之ヲ武廟集方面ニ圧倒シ続イテ商城ニ向ヒ急進ス、騎兵ハ固始方向ヨリ商城北方地区ニ進出シ敵ノ背後ヲ脅威ス、歩兵第九連隊ハ当面ノ敵ヲ擊破シ先ツ武廟集方向ニ突進シ続イテ商城方向ニ進撃ス、旅団ハ先ツ十四時迄ニ葉家集北端ヲ先頭トシ葉家集—孫家口路上ニ左ノ如ク集合ス
☆ 38 i 主力 BTL S IIIFL 臨時馬徴連隊 (I I 欠) ハ十三時五十分迄ニ葉家集北端ヲ先頭トシテ集合ス
二、大隊ハ連隊ノ先頭大隊トナルタメ葉家集東端站ニ向ヒ前進セントス
三、交信序列左ノ如シ
▶ 11 12 9 10 MG BiA 小行李
四、大行李ハ諸隊出發後葉家集西側ニ至リ師団大行李長ノ指揮ヲ受クヘシ
五、余ハ十四時葉家集三叉路付近ニ在リ爾後大隊ノ先頭ヲ前進ス

大隊長 兒玉少佐

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

九月十三日 曇 於甕圈橋

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 46,47 号】
- 一、大隊ハ依然師団ノ前衛トナリ昨日ト同シ態勢ニテ六時武廟集出發、照リモセス時折雨サヘ交ル第九連隊ノ戦闘進捗セサル模様ニテ前衛ノ行軍遅々トシテ進マス、午前中ニ約一里ヲ行軍スルノミ、午後ハ第九連隊ノ戦闘ニ協力、十八時甕圈橋付近ノ高地ヲ占領シ同地確保ノ俟夜ヲ徹ス、敵主力ハ道路ヨリ右台地ニ陣地ヲ占領シアルモ我正面、左台地ニ逐次増加スル模様ナリ、敵ハ盛ニ射撃ヲ繫続シアルモ狙撃ハ今迄ノ敵ニ比シ下手ナリ、我方志気旺盛ナリ久振リノ戦闘参加ヲ喜ブ
- 一、本日ノ現在員前日ニ同シ

九月十四日 晴 於鄧家集西方一軒家

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 48-50 号】
- 一、敵退却ノ報ニ夢破ラレ直ニ追撃、時正ニ四時有明ノ月尚上空ニ有リ、集結ヲ終リ第二小隊尖兵第十中隊ニ配属第一小隊中隊ニ復帰
- 一、道路ノ破損ヲ修理シツ、九時方家集ヲ通過ス、其ノ西方高地ニ敵ハ陣地ヲ占領シアリ、直ニ大隊ハ展開、尖兵ヲ右第一線、第十一中隊ニ機関銃第三小隊ヲ配属シ左岩山ニ向ヒ攻撃前進、機関銃主力ハ第十中隊ノ左ニ陣地ヲ占領ス
- 一、十時中島清治負傷ス
- 一、攻撃前進後間モナク敵ハ退却直ニ追撃ニ移ル、機関銃主力ハ道路ヨリ右第十中隊ニ協力シツ、道路ニ添ヒ進出ス
- 一、第一大隊ハ左一線ニ増加セル為大隊ハ右ニ移動ス
- 一、第十中隊右ニ迂回セル為大隊正面ハ機関銃主力ノミトナル
- 一、多数散在セル敵ト一カチノ前ヲ横切り敵砲弾ニ見舞ハレツ、モ、或ハ敵散兵線ノ背後ヨリ或ハ敵ノ側面ニ進出シ、射撃ト前進ヲ反復シ機関銃主力ノ左ニ第十二中隊進出、本夜此地ヲ確保シ警戒ヲ敵ニシテ

夜ヲ徹ス

一、本日ノ現在員中隊長以下一三七名
III 作命六ノ 48 号 九月十四日四時二十三分 於甕圈橋東側台上

第三大隊命令

- 一、大隊当面ノ敵ハ旧追撃隊正面ノ敵ニ引続キ概ネ零時頃西方ニ退却セリ、師団ハ随所ニ敗退スル敵ヲ捕捉撃滅スルト共ニ敵ヲシテ既設陣地ニ依ルアタハザル如ク之ヲ商城ニ向ヒ急迫ヲ企図ス、第三十旅団(33 i I I / 38 欠キ DFL Qi 主力 軽装甲車 第二中隊P 第一中隊S (-1 / 3) I、I I I / 2 2 A ヲ合セ指揮ス) ハ新ニ追撃隊トナリ五時殺ニ家集出發、仮家集、方家集、商城道ニ副フ地区ヲ商城ニ向ヒ急迫シ敵ノ抵抗ニ遭遇セハ特ニ兩側面ヨリ有カナル部隊ヲ以テ包圍殲滅ニ努ムルト共ニ敗敵ヲ投倒シ之ヲシテ再ヒ抵抗ノ暇ナカラシム
- 二、大隊ハ連隊長ノ指揮下ニ復帰シ第十中隊ヲ復帰セシメラル、概ネ現在地ニ於テ連隊主力ノ到着ヲ待タントス
- 三、第十二中隊(1 / 4 MG 配属) ハ直チニ前進ヲ起シ缸窑西端ヲ占領シ追撃隊主力ノ前進ヲ擁護スヘシ、第十二中隊ハ第十中隊到着セハ其ノ任務ヲ交代スヘシ、配属機関銃ハ同時第十中隊ニ配属ス
- 四、爾余ノ諸隊ハ左ノ序列ヲ以テ五時十分迄ニ本道上ニ集合シ前進ヲ準備スヘシ
- 1 / 3 1 1 ▶ 1 1 (-1 / 3) MG 主力 B i A 小行李
- 亦第十一中隊ハ出發迄一分隊ヲ道路西側ニ出シ南方ニ對シ警戒スヘシ
- 五、余ハ五時〇分現大隊本部西側道路上ニ在リ

大隊長 兒玉少佐

下達法 各隊命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

III 作命六ノ 49 号 九月十四日十時〇分 於江家棚

第三大隊命令

- 一、敵ハ江家棚西方台上ヨリ南方高地ニ亘リ陣地ヲ占領シアリ、其兵力少ナキモ一隊機関銃約二銃追撃砲十二門ヲ有ス、其他ハ諸官ノ知レル通りナリ

- 二、大隊ハ道路突当リ付近ヨリ南側高地ノ敵ヲ攻撃シ西方森ノ台及其ノ南方高地ニ進出セントス
- 三、右ヨリ第十中隊、第十一中隊（-1/3）第一線第十一中隊ニMG一小隊ヲ属ス
- 四、第十二中隊ハ大隊長ノ指揮ニ服ス南方最高ノ高地ヲ占領シ第十一中隊ニ連繫シ山ニ副ヒ前進スヘシ
- 五、機関銃中隊ハ一小隊ヲ第十中隊ニ協力、主力ヲ以テ大隊本部前方ノ台地ニ進入、主トシテ南方森ノ台地ヲ占領射撃スヘシ
- 六、歩兵砲小队ハ現在地ニ陣地ヲ占領シ主トシテ南方台地付近ノ敵重火器ヲ求メテ射撃スヘシ
- 八、輕装甲車中隊ハ本道上ヲ前進ス第十中隊ハ之ニ協力極力前進スヘシ、機関銃中隊ハ之カ前進ヲ擁護スヘシ
- 九、隊繙帶所ハ大隊本部ノ後方一軒家ニ開設スヘシ足カタメ第一線各中隊ヨリ担架兵四名宛同所ニ差出スヘシ
- 十、第十一中隊ハ一小隊ハ予備隊トス大隊本部後方凹地ニ位置スヘシ、第十二中隊ノ一小隊ハ予備隊工兵小队予備隊
- 十一、余ハ暫ク現在地ニ在リ

大隊長 児玉少佐

下達法 各隊命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

III 作命六ノ 50 号 九月十四日二十二時二十分 於羅玉庄

第三大隊命令

- 一、敵ハ鄧家集東西高地線ニ陣地ヲ占領シアリ、追撃隊前衛ハ明松曉ヲ期シ前面ノ敵ヲ攻撃ス
- 二、大隊（9 欠）ハ依然右第一線賀家湾西方高地最高所ヨリ鄧家集鞍部ニ亘ル間ノ主トシテ山麓ニ在ル敵陣地ヲ明松曉ヲ期シ奪取シ鞍部方向ニ敵ヲ压迫シ本道ノ線ニ進出セントス
- 三、右ヨリ第十一、第十二、第一線明朝五時三十分迄ニ敵陣地前約二百米ノ線ニ接近シ攻撃ヲ準備スヘシ
- 四、機関銃中隊ハ一小隊ヲ第十一中隊ニ配属シ主力ハ概ネ現在ノ位置ニ於テ主トシテ第十二中隊攻撃ニ協カシ得ル如ク準備スベシ

- 五、歩兵小队ハ概ネ現在地付近ニ於テ仮家湾西方高地及要スレハ鞍部南方高地ノ重火器ヲ射撃シ得ル如ク準備スヘシ
- 六、第一線両中隊ノ攻撃ノ時期ハ概ネ六時三十分ト予定スルモ別命ス
- 七、第十中隊ハ予備隊トス現在地付近ニ於テ前進ヲ準備シアルヘシ
- 八、小行李ハ現在地付近ニ位置シ弾薬補充ヲ準備スヘシ
- 九、余ハ現在地ニ在リ

大隊長 児玉少佐

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

九月十五日 晴 於柳樹店

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 51,52 号】
- 一、六時二十分ヨリ攻撃開始、山頂及山腹ノ敵ハ依然我ヲ瞰射スレト物ノ数ナラス
- 一、八時二十分敵砲弾ノ為山口末吉、山本喜介、井谷元春、北竹雄ノ四名負傷ス
- 一、右十一中隊ニ機関銃第二小队ヲ配属、左ニ第十二中隊、機関銃主力ハ其中間ニテ射撃ス
- 一、小銃中隊続々前進、山脚ニ取り付クヤ彼我ノ砲弾ト相俟ケテ機関銃ノ援護射撃功ヲ奏ス、十一時郵便物ヲ受領セシモ読ム間モナク前身、第十一中隊山頂ニ近迫シ、第十二中隊左ヨリ山腹ヲ挙グ
- 一、十三時坂本聡一郎、上田好幸、小西義孝、増田義春、松本武夫ノ五名敵砲弾ノタメ負傷ス
- 一、機関銃ハ急遽山頂ニ取ツキ退却スル敵ヲ射撃続イテ敵迫撃砲ノ位置ヲ求メテ射撃ノヲ四散セシム、時々敵砲弾落下スレ共山頂近クニテ敵ト対峙ノマヽ、我カ来リシ方向ヲ見レハ下界ハ全ク平地ノ如ク昨日ヨリノ行動手ニ取ルカ如ク見之得、互ニ此ノ地形ニシテ良ク短時日ニ占領シ得シヲ喜フ、此ノ間食事及糧秣受領等諸準備ヲ完了シ、敵ノ逆襲ヲ排除シテ敵死体ヲ乗り越エ突撃ヲ敢行、山頂ヲ完全ニ占領ス
- 一、十九時迫撃ノタメ下山、但シ第十一中隊（機関銃第二小队配属）ハ山頂ニテ敵ト対峙ス、主力ハ直ニ隘路ヲ経テ二十一時三十分柳樹店ニ進出、大休止、至

敵警戒裏ニ夜ヲ徹ス

一、山口弘、山本喜介、北竹雄、上田好幸、坂本宗一郎ノ五名各々戦傷ニテ入院ス

一、第十一中隊配属ノ第二小隊ニ於テ中川貞雄急性腸炎ニテ入院ス

一、本日ノ現在員 中隊長以下一〇八名
配属 二三名

仮家集付近戦闘ニ於ケル編成表（昭和十三年九月十三日） 第三機関銃中隊 【略】

鄧家集付近戦闘ニ於ケル編成表（昭和十三年九月十四十五日） 第三機関銃中隊 【略】

鄧家集付近戦闘経過要図

一、戦闘経過概要

九月十四日十時 I I I 作命六ノ四九号ニ依リ右第一線第十中隊ニMG第二小隊ヲ、左第一線第十一中隊ニ第三小隊ヲ配属シ、主力ハ本道ニ副フ地区ニ依ル、敵ノ抵抗ヲ排除シツ、一意猛進ス、九月十四日十九時鄧家集西北方台地ニ進出シ敵ヲ偵察シツ、夜ヲ徹ス、第二、第三小隊中隊ニ復期ス、右第一線ニ第十一中隊ニ第二中隊ヲ配属ス

九月十五日八時三十分攻撃開始シ主力ハ主トシテ第十二中隊ノ戦闘ニ協カシ猛火力ヲ発揚シテ敵ノ抵抗ヲ破壊シテ十三時高地上ニ進出シ退却スル敵ヲ射撃ス

詳細要図ノ如シ

二、本戦闘間ノ射耗弾

MG弾 二一、一五〇発
小銃 一一五発
チェッコ 五〇〇発

三、戦傷者

下士官 二
兵 八 内入院六名

四、戦闘参加人員数

将校 四名
准士官 一三四名
馬 二五頭

【図 11 頁参照】

九月十六日 晴 於小龍潭

一、本ノ命令別紙ノ如シ 【III 作命六ノ 54 号】

一、六時三十分柳樹店出発、敵敗残兵諸所ニ数知レス 全部浮浪人ノ如ク茫然トシテ漂泊シアリ

一、十一時三十分商城着、商城西方ニテ昼食、尚敵小癩ニモ抵抗シアルヲ見テ十四時第一大隊ノ左ニ展開退却スル敵ヲ射撃ス、遠距離ナリシモ見事ニ命中シ心愉快ナリキ

一、十八時三十分小龍潭着、第一小隊ヲ第九中隊ニ配属シ主力ハ当地ニ村落野営ヲナス

一、本日ノ勤務者 日直下士官 青木軍曹
衛兵 津川伍長以下五名

一、本日ノ現在員 中隊長以下 一〇九名
配属 二二名

年玉山付近戦闘経過要図

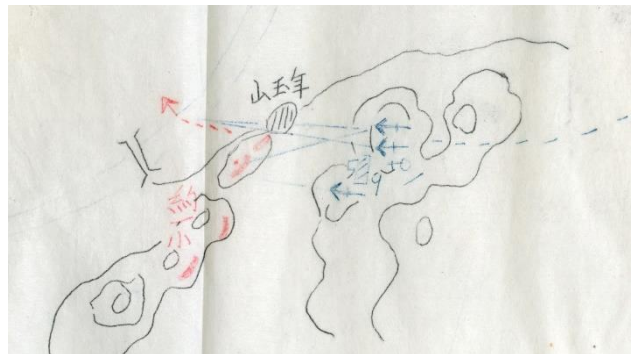
一、戦闘経過ノ概要

九月十六日十四時河棚西方地区ニ達セシ時曲河右岸年玉山高地ニ敵ノ一部陣地ニ抛リ抵抗シアリ、大隊ハ左岸第一線トシテ本道ヨリ左高地ニ展開攻撃ノ為機関銃陣地ノ偵察ヲ大隊リ命セラル、直チニ進出シ偵察ノ結果ヲ報告シ次テ命ニ依リ陣地侵入ヲナシ敵火点ヲ猛射ス、敵ハ連隊砲火ノタメ渡河退却ヲ始ム、機関銃ハ全火力ヲ以テ之ヲ掃射シ敵多数ヲ殲ス

二、射耗弾 一、四一〇発

三、損傷 ナシ

四、戦闘参加人員 将校三准尉以下一〇五名



九月十七日 曇後雨 於小龍潭

一、本ノ命令別紙ノ如シ 【III 作命六ノ 55 号】

- 一、七時五十分ヨリ田中伍長引率ニテ病馬診断
- 一、十時ヨリ蹄鉄工兵二名蹄鉄場へ差出ス
- 一、爾余ハ一般ニ休養ス、久シ振リニ入浴シ戦塵ノ垢ヲ落ス、当地方ノ地形ハ山地ニテ内地ノ地形ニ類似シ一同秋季演習ノ気持ナス
- 一、本日ノ勤務員 日直下士官 松本伍長
衛兵 中田伍長以下五名
- 一、本日ノ現在員 前日ニ同シ

九月十八日 雨 於小龍潭

- 一、本ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 56 号】
- 一、終日雨ニテ家狭ク雨漏シ飯含炊事ニ一苦勞セリ
- 一、本日ノ勤務者 日直下士官 飯高軍曹
衛兵 山本伍長以下五名
- 一、本日ノ現在員 前日ニ同シ

九月十九日 雨 於小龍潭

- 一、本ノ命令別紙ノ如シ
- 一、八時ヨリ病馬診断
- 一、本日モ終日雨ニテ憂鬱ナリシ
- 一、十一時第一小隊ヨリ井筒軍曹連絡ニ来ル
- 一、本日ノ勤務員 日直下士官 岡村伍長
衛兵 新丁伍長以下五名
- 一、本日ノ現在員 前日ニ同シ

九月二十日 雨 於小龍潭

- 一、本ノ命令別紙ノ如シ
- 一、八時ヨリ病馬診断
- 一、午前中ハ晴レタレト太陽ヲ見ス、午後又雨振ル
- 一、十一時太田中尉連絡ニ来ル
- 一、午後糧秣受領ス
- 一、本日ノ勤務員 日直下士官 清水軍曹
衛兵 森田伍長以下五名
- 一、本日ノ現在員 前日ニ同シ

九月二十一日 雨 於小龍潭

- 一、本ノ命令別紙ノ如シ
【三八作命六ノ 64 号、III 作命六ノ 57 号】

- 一、八時ヨリ病馬診断
- 一、本日モ細雨ナリ雨モ三日続ケハ嫌ニナル
- 一、藤本勝巳左湿性胸膜炎ニテ入院ス
- 一、本日ノ勤務員 日直下士官 奥田軍曹
衛兵 福田伍長以下五名
- 一、本日ノ現在員 前日ニ同シ

九月二十二日 雨 於小龍潭

- 一、本ノ命令別紙ノ如シ
- 一、前日ニ変リナク一日ヲスコス
- 一、午前中将校行李、公用行李返納
- 一、本日ノ勤務員 日直下士官 小柴伍長
衛兵 松村伍長以下五名
- 一、本日ノ現在員 前日ニ同シ

九月二十三日 雨 於余家集

- 一、本ノ命令別紙ノ如シ
【III 作命六ノ 58,59 号、三八作命六ノ 67 号】
- 一、午前中出発準備、十三時小龍潭出発
- 一、雨ノ行軍憂鬱ナレト今迄ニ比シ道路砂地ナレハ割合ニ泥付着セス
- 一、十七時三十分余家集着、村落露營ヲナス
- 一、本日太田中尉丙中隊ニ転出ス
- 一、本日ノ現在員 中隊長以下一二九名、馬二五頭
III 作命六ノ 58 号 九月二十三日十六時四十五分
於余家集
余家集露營命令
- 一、先遣隊戦況ハ暫時有利ニ進展シアルモノ、如キモ明ラカナラス
- 二、大隊及山砲兵第六中隊同大隊彈列ハ本夜余家集付近ニ村落露營シ明二十四日前進ヲ準備セントス
- 三、各隊ハ別ニ指示スル所ニ從ヒ村落露營スヘシ
- 四、警戒ハ各部落毎ニ先住者区署実施スヘシ
- 五、山砲兵中隊ノ後方ヲ前進シツ、アル第十二中隊ノ二ヶ分隊ハ山砲兵ノ援護ニ任スヘシ
- 六、給養ハ携帯糧秣ニ依ルヘシ
- 七、余ハ余家集ニ在リ
大隊長 児玉少佐

下達法 各隊命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

九月二十四日 雨 於沙窩

- 一、本ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 58-60 号】
- 一、七時余家集出發
- 一、十時三十分沙窩着、部落入口付近ニ於テ敵ニ遮蔽シテ停止、本夜ノ行動準備ス
- 一、二十時二十分整列第十一中隊ニ第三小隊、第十中隊ニ第四小隊ヲ配屬シ鉢巻山ニ對シ攻撃開始ス
- 一、本日松本武夫入院ス
- 一、本日ノ現在員 中隊長以下一二八人、馬二五頭 歩三八 III 作命六ノ 60 号 九月二十四日十七時三十分 於沙窩北門外 第三大隊命令

- 一、敵ハ鉢巻山付近ヨリ揚家塞西南高地ニ陣地ヲ占領シアリ先遣隊ハ新ニ I I I / 3 8 i 及獨立山砲第六中隊同大隊彈列ノ増援ヲ得テ明払曉(イ)高地奪取ノタメ先ツ天明迄鉢巻山及右ノ松山高地ヲ占領セントス、其ノ計画別紙斜景図ノ如シ
- 二、大隊ハ(獨立山砲一小隊屬)右第一線トナリ本日もヨリ行動ヲ起シ明払曉(イ)高地奪取ノタメ先ツ天明迄鉢巻山及右ノ松山高地ヲ占領セントス、其ノ計画別紙斜景図ノ如シ
- 三、第九中隊河田少尉ハ約二ヶ分隊ヲ以テ將校斥候トナリ鉢巻山及右ノ松山高地中腹ニ到ル間ノ進路ヲ偵察シ之ヲ表示、尚一部ヲ以テ大隊誘導ニ任セシムセシ
- 四、各隊ハ二十時三十分迄ニ左ノ順序ヲ以テ概ネ現在地ニ於テ前進シ得ル如ク準備スヘシ
1 1 (1/4MG 屬) ▶ 1 0 (1/4MG) 9 1 2 (-1/3) MG (2/4 欠) B i A 小行李 山砲 1/3 1 2 (山砲擁護)
- 五、大行李ハ現在地付近ニ位置スヘシ
- 六、各小銃中隊ハ補助担架兵二名宛十九時三十分迄ニ大隊本部ニ差出シ白木軍医中尉ノ指示ヲ受ケシムヘシ、特種發煙筒、燈明彈、信號彈、或火手榴彈、擲彈筒
- 七、給養ハ携帶口糧ニ依ル、携行ニ関シテハ別ニ指示

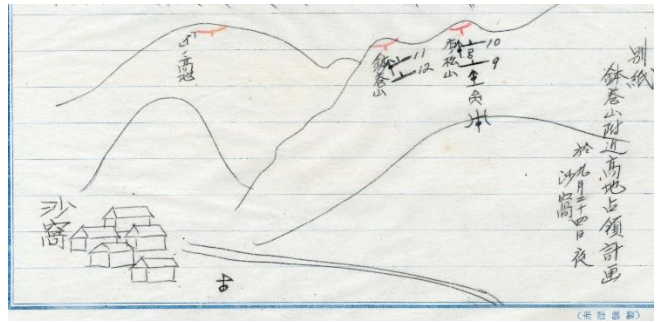
セル所ニヨル

八、余ハ二十時三十分以後大隊本部ノ先頭ニ在リテ前進ス

大隊長 児玉少佐

下達法 各隊命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム 別紙

鉢巻山付近高地占領計画 於九月二十四日夜沙窩



九月二十五日 晴 於沙窩南方三千米山頂

- 一、本ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 62,63 号】
- 一、六時鉢巻山ノ手前ノ山占領
- 一、八時五十分奥田辰蔵、坂本敏治戦死ス
- 一、八時五十分塚慶治、久保正直戦傷ス
- 一、十一時西本武夫戦死ス、川崎義治、小西仁負傷ス、東樓高地ニテ
- 一、十一時五十分山本忠雄野戦病院ニテ死亡ス、同時秋田金次郎負傷ス
- 一、第二小隊ヲシテ一時死傷者ノ収容ニ當ラシム
- 一、十九時第二小隊ニテ一ヶ分隊ヲ編成シ戦闘ニ参加ス、第六、第八分隊ノ機関銃敵弾ノ為破損ス、鉢巻山未タ取レス
- 歩三八 III 作命六ノ 62 号 九月二十五日十一時三十五分 於東樓高地 第三大隊命令
- 一、敵ハ主トシテ岩山高地ヲ占領シアリ
- 二、大隊ハ岩山高地ノ敵ヲ駆逐シ鉢巻山付近ニ進出シ続イテ(イ)高地ノ敵ヲ攻撃セントス
- 三、第十、九中隊ハ第一線今ヨリ攻撃前進第十二中隊ハ予備隊
- 四、主力機関銃及歩兵砲ハ現在地付近ニ陣地ヲ占領シ主トシテ岩山高地ノ敵ヲ制圧スヘシ

五、山砲兵小隊ハ大隊本部付近ニ陣地侵入シ主トシテ
岩山付近ノ敵ヲ求メテ射撃シ亦 (イ) 高地ノ追撃砲
ノ位置ヲ視察スヘシ

六、余ハ暫ク現在地ニ在リ後岩山北方高地ニ異動ス

大隊長 児玉少佐

下達法 各隊命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

歩三八 III 作命六ノ 63 号 九月二十五日十九時〇分
於東楼高地

第三大隊命令

一、大隊ハ第九中隊ノ戦火ヲ利用シテ日没後可成ク早
ク松山高地、鉢巻山高地ヲ奪取セントス

二、第九中隊ハ現占領地ヲ確保シ第十中隊ノ攻撃ヲ容
易ナカラシムヘシ

三、第十、第十一中隊ハ各々当面ノ敵ニ対シ日没後可
成ク速カニ攻撃ヲ実行シ敵陣地ヲ奪取スヘシ、
尚両中隊協カスルヲ要ス、亦陣地奪取セバマス確保
シ直チニ (イ) 高地ノ搜索ヲ実施シ攻撃ヲ準備スヘ
シ

四、機関銃中隊主力、山砲小隊、歩兵砲及予備隊ハ日没
後機ヲ見テ松山高地麓ニ向ヒ異動シ得ル如ク準備ス
ヘシ、但シ山砲ハ鉢巻山付近

五、給養ハ携帯口糧乙ヲ使用スヘシ

六、余ハ暫ク現在地ニ在リ

大隊長 児玉少佐

下達法 各隊命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

九月二十六日 晴 於東楼高地

一、本ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 64 号】

一、二十五日二十時頃リ第九中隊岩山山頂ニ突入之ヲ
確保セル模様ナリ (梶川負傷入院)

一、中隊主力ハ大隊本部ト共ニ更ニ移動砂窩南方三八
〇〇米山頂ニ進出同地確保ス

一、二十六日払暁各中隊戦闘進捗セル模様ナリ、機関
銃ハ依然現在地ニ於テ援護射撃ヲナス、小銃弾ニ依
リ故障セル第八分隊ノ銃ヲ応急修理ヲナシ一時第二
小隊長ノ指揮下ニ入ラシム

一、本日ノ現在員 中隊長以下一二八人、馬二五頭

九月二十七日 晴 於砂窩南方三千米高地

一、本ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 65 号】

一、中隊ハ現陣地ヲ依然確保ス

一、第十中隊ニ配属ノ第四小隊ハ八時中隊ニ復帰ス、
同時第八分隊小隊ニ復帰ス

一、九時頃陣地前谷地ニ於テ人声スル為見テ見レハ約
二ケ中隊ノ敵カ我陣地ニ向ッテ襲撃シ来レリ、中隊
ハ全力ヲ挙ケテ優先奮闘ス、第九中隊ノ一ケ小隊増
援ト共ニ此ノ敵ヲ撃退ス、時正ニ九時五十分ナリ

一、九時三十分清水軍曹戦死、外嶋曹長、下田常七、森
川岸雄、中田久夫、飯高重雄、中島正治、北之井武雄、
川口重信、田中忍、山本吉雄、中山芳清、新谷吉次、
伊谷元春、米田正一、谷口春雄、上田好幸負傷ス

一、十時五分井筒軍曹、吉川常夫負傷ス

一、十時四十五分青木軍曹、久保正直負傷ス

一、戦銃隊欠兵ノ為指揮班ヨリ五名第二、第四小隊ニ
補充ス

一、本戦闘ニ於テ多数ノ犠牲者ヲ出セト中隊ハ中隊長
以下士気益々旺盛ナリ

一、十八時戦死傷者ノ収容終ル

一、中隊ハ大隊命令ニ依リ右上高地ニ陣地変換ナシ、
用地確保ノ為配備ニ付キ至敵警戒裏ニ夜ヲ徹ス

一、本日ノ現在員 中隊長以下 一〇三名

歩三八 III 作命六ノ 65 号 九月二十七日十五時〇分
於東楼高地

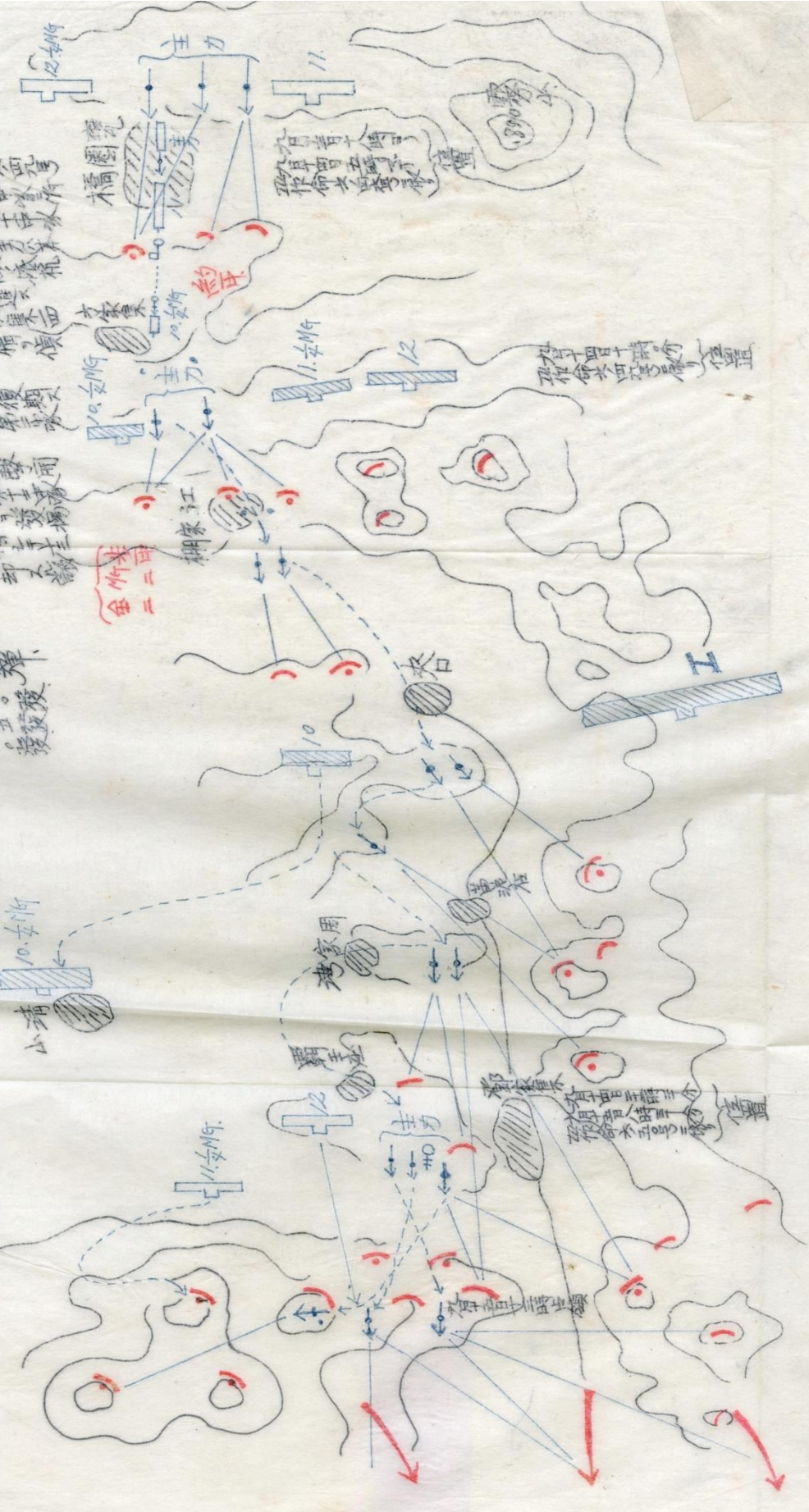
第三大隊命令

一、岩山ヨリ鉢巻東麓ノ的尚頑強ニ抵抗シツ、アリ岩
山方面ノ敵ハ攻撃氣勢ニアリ、第九中隊ノ仲地リ目
視シタル所ニ依レハ岩山東麓ノ敵ハ隣大隊トノ中間
ヲ潜入セントシツ、アリ別ニ大隊陣地ノ西側七、八
〇〇付近ニハ約一ケ大隊ノ敵近迫シアリ、連隊主力
ハ十一時〇分余家集ニ到着シ本夜中ニハ砂窩ニ到着
予定ナリ

二、大隊ハ依然先遣隊ノ右第一線トナリ余黄寺ヨリ岩
山ヲ経テ東楼高地東北麓ニ亘ル間ノ地区ニ対シ東楼
高地ヲ占領シ之ヲ固守セントス

鄧集家附近戰經過要圖

戰事經過概要
 有晉十時及夜命六西是
 夜十時及夜命六西是
 第一夜九時及夜命六西是
 第二夜九時及夜命六西是
 第三夜九時及夜命六西是
 第四夜九時及夜命六西是
 第五夜九時及夜命六西是
 第六夜九時及夜命六西是
 第七夜九時及夜命六西是
 第八夜九時及夜命六西是
 第九夜九時及夜命六西是
 第十夜九時及夜命六西是

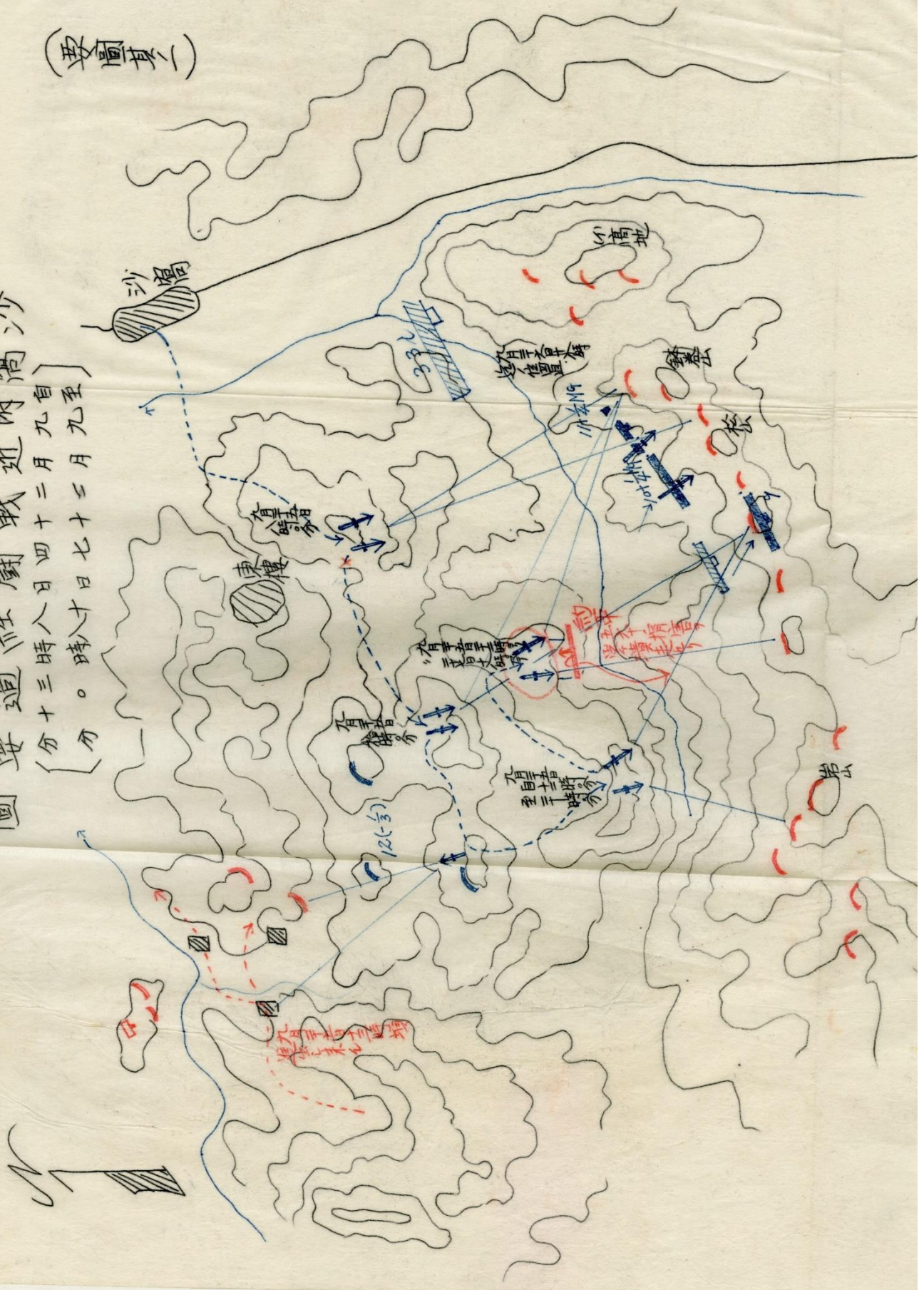


五

(要圖其二)

沙窩附近戰經過要圖

〔自九月二十二日四時三十分至九月二十九日七時十分〕



※本図は10月分の日誌に所収

令和3年2月
奈良県立図書情報館